

津久戸

令和4年1月11日

1月号 新宿区立津久戸小学校

昨年を振り返り思うこと

校長 牧田 健一

新年明けましておめでとうございます。令和2年3月から続く新型コロナウイルスの影響で、昨年も、保護者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。また、急な行事等の変更や毎朝の検温等、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。いまだ新型コロナウイルスの感染予防を続けております。引き続きのご協力を改めてお願い申し上げます。

新型コロナウイルス蔓延によるパンデミックが2年近く続いています。ほとんどの人々が初めて出会う世界的な大問題です。日本も含めて各国で対策を講じました。誰も正解が分からない問題です。それぞれの国で、様々な分野の方々がこの問題に取り組んできました。いまだに解決というゴールには達していませんが、確実にゴールに近づいていると感じています。今なお、ご努力をされている医療関係者をはじめとして、様々な取り組みをしている方々に敬意と感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

さて、今後20年、30年先に感染症の問題だけではなく、正解が分からない問題に直面するであろうことが予測されます。変化の激しいこの現代社会を、津久戸小学校の子供たちはどのように生きていくのだろうか、そして今身に付けさせていく力はどうのようなものであるか等、私たち教員も新たな時代に向けて日々試行錯誤しています。ただ一つだけ間違いないと確信していることがあります。それは、数値では表すことができない力であるということです。例えば自己肯定感、自尊心、自立心、自制心、ねばり強さ、忍耐力、協調性、思いやり、善悪の区別を知る道徳性、勇気等です。これは乳幼児期から小学校の生活の中で育まれていくものだと言われています。このような力は「非認知能力」と呼ばれています。これは机上で行う知育教育では、身に付けることができないものです。子供同士のかかわり合いの中でこそ育まれていくものです。今年もその非認知能力を身に付けさせていくために、協働的な学びを進めていきたいと考えています。

ぜひ、昨年度と同様に保護者の皆様、地域の皆様にお力をお借りしながら、より良い津久戸小学校、より良い津久戸の街、素晴らしい津久戸の子供たちの育成を目指して今年も全力で取り組みたいと思います。

持久走・なわとび月間

体育主任

今年度の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」において本校では、新宿区の平均を下回る傾向にあるという結果が出ました。この結果は、体を動かす機会が減っていることが理由の一つとして考えられます。そのような状況の中で、本校としては、今年度から再開された朝元気や1月から始まる持久走月間、2月から始まるなわとび月間を通して、積極的に体を動かしてほしいと考えています。その中の朝元気では、楽しく体を動かす子どもたちが多く見受けられています。引き続き、体を動かすことに慣れ親しんでもらえればと思います。

1月から始まる持久走月間は、各クラスが体育の時間で実施します。一人ひとりが自分の決めた目標に向かって、あきらめずに取り組み、体を動かすことの気持ちよさを味わえるよう指導していきます。あわせて、自主的に体を動かすような意欲や関心をもたせたいと考えています。2月から始まるなわとび月間では、個人で一つの跳び方を極めたり、多くの跳び方に挑戦したりします。そして、クラスによっては、長縄跳びに挑戦し、「連続8の字跳び」等の新宿ギネスに挑戦します。なわとびに積極的に取り組み、できたときの達成感をたくさん味わわせたいです。様々な取り組みの中で、「たくましく前向きに生きる」という学校教育目標に迫っていききたいと思います。

席書会

特別活動部

新年が明けて、思いを書にしたためることを「書き初め」と言います。その年の心構えや抱負などを書き記し精進するとうまくいくといわれています。

学校では、1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆で席書会をします。硬筆は、かきかた鉛筆を使って、手本を見ながら書きます。毛筆はだるま筆を使い、力強く書きます。書き初めの練習は、11月ごろから取り組んでいます。練習した成果を席書会で発揮してほしいです。

今年度は2月4日(金)・5日(土)の学校公開に合わせて、校内で1月31日(月)～2月10日(木)に書き初め展を行います。ぜひ、子どもたちの心を込めて書いた作品をご覧ください。幸いです。



「図工」で大切なこと

図工専科

感染症拡大防止のために登校できない、休校せざるを得ない、そんな時のための対策として、急遽、全国の学校にタブレット端末が配布され、リモートでの授業も可能となりました。また、各教科で、タブレット端末を活用した授業も始まりました。

文部科学省などでは、子ども一人ひとりにタブレット端末を配布し、ICT（情報通信技術）を活用した授業を取り入れようと、数年前から構想していました。それが、コロナ禍によって急速に現実のものとなりました。

図工の授業でも、タブレット端末を活用した授業を実践しました。「作品をカメラ機能で取り込み、スライドショーで鑑賞し合う」「作画機能で絵を描く」「コマ撮り機能で動画を製作する」などの実践をしました。図工のポイントとしては、撮る視点や画面の構図、作画ツールを生かした形や色の工夫などをよく考えて取り組みました。子どもたちが、手順や操作を柔軟に受け入れ、思い思いに取り組む姿には感心しました。撮影した画像を、絵や動画に機能を生かして表すために、子どもたちが校庭で体を動かし、友達と楽しそうに取り組む姿に、人や物とのリアルな関わりが学習には欠かせないと改めて実感しました。

図工では、人や物と主体的に関わろうとする「思い」がとても大切です。ICTは表現のための新たな道具として多くの可能性を感じますが、自分の目で直に見て、触れて、感じて、主体的に創り出すことの意味や本質を問いつけることが、これからも図工にとって大きな目標のひとつです。

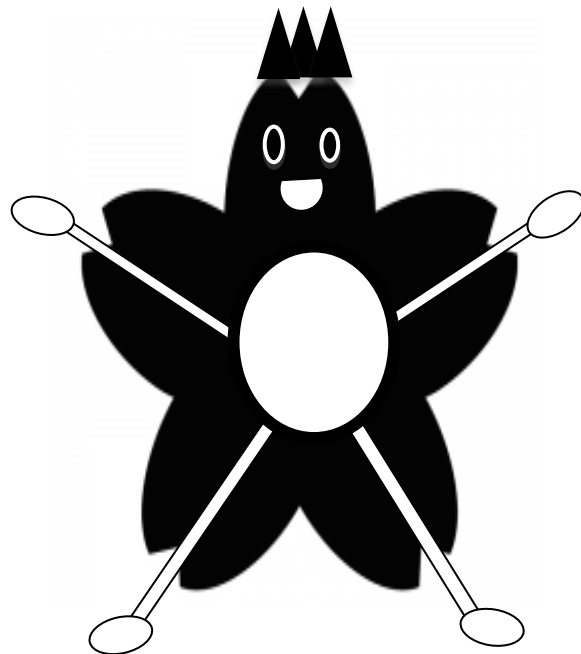


1月の生活目標

『きまりよい生活をしよう』

- ・学習の準備をきちんとしよう。
- ・忘れ物に気をつけよう。
- ・生活のリズムをとりもどそう。
- ・遊びのきまりを守ろう。

冬休みが終わりました。生活リズムを整え、落ち着いて学習に取り組めるようにご家庭のご協力をお願いいたします。まだまだ日が落ちるのが早く、暗くなるのがあつという間です。外に遊びに行くときには、だれと、どこへ行くのか話し、ご家庭で時間や場所など約束を決めていただければと思います。（生活指導部）



【お願い】

- 同居するきょうだい又は親族に風邪症状がみられた場合、PCR検査を受ける前であってもお子様の登校は控えてくださるようご協力願います。
- 新型コロナウイルス感染症の影響等により、お子様のことで不安等がありましたら、担任又は管理職にご相談ください。